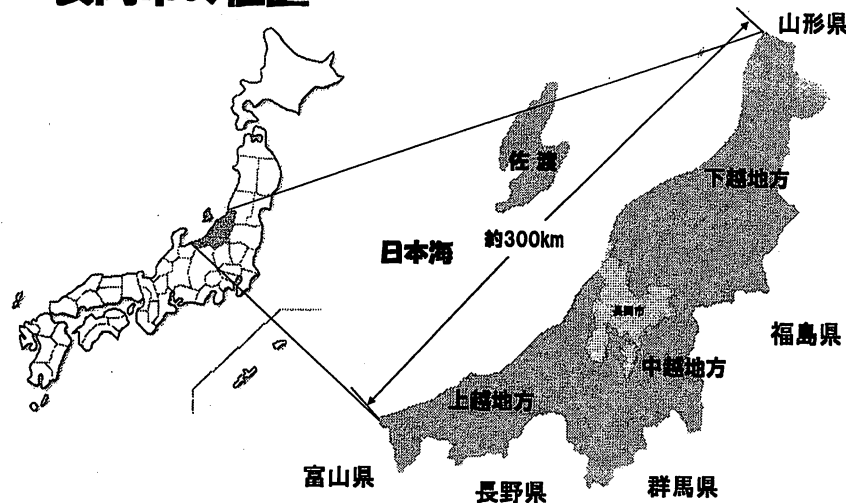


概要版

まち
日本一災害に強い都市を目指して

長岡市

長岡市の位置



新長岡市誕生

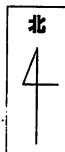
(11市町村合併)

合併
H17.4.1=5町村が編入
(2005)
H18.1.1=4市町村が編入
(2006)
H22.3.31=1町が編入
(2010)

人口 19万3千人
⇒28万4千人
面積 262Km²
⇒891Km²

中越大地震
H16.10.23 17:58
最大震度7 (M6.8)

中越沖地震
H19.7.16 10:13
最大震度6強 (M6.8)



※ 震度数は、各地域の最大震度

災害に見舞われた平成16年

7.13水害 (新潟・福島豪雨災害) 7月13日(火)
刈谷田川ダム(旧栃尾市) 24時間最大降雨量426mm



濁流に押しつぶされた家や流された車両 (旧中之島町)

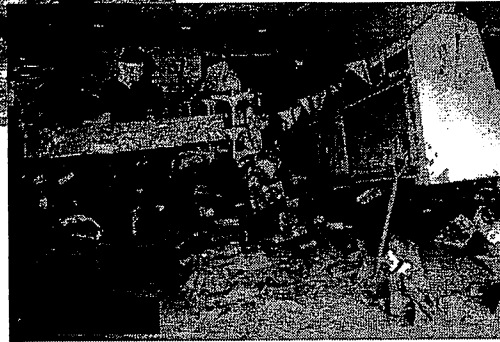
写真:新潟日報

刈谷田川の堤防が決壊して冠水した住宅地 (旧中之島町)



粗大ごみとなった家財道具
等が積み上げられた道路
(旧中之島町)

写真:新潟日報



泥まみれになった店舗を
後片付けする被災者
(旧中之島町)

人的被害と住家の被害状況

平成17年3月23日現在・最終

区 分		新潟県全体	長岡市 (合併市町村を含む。)
死 者		15人	4人
負 傷 者		82人	0人
住 家 被 害	全 壊	71棟	65棟 (うち旧中之島町56棟)
	半 壊	5,657棟	369棟
	一部損壊	82棟	46棟
	床上浸水	1,882棟	420棟
	床下浸水	6,197棟	2,458棟

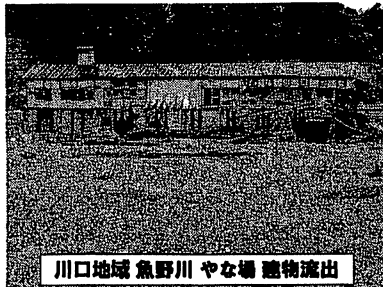
被害額は、県全体で2,125億円となり、水害としては本県の戦後最悪

平成23年7月新潟・福島豪雨

新潟県や福島県では、29日昼前から局地的に80mmを超える雨が断続的に降り、平成16年の7.13水害を上回る記録的な大雨となった。

加茂市で総雨量623.5mm、長岡市の栃尾地域で550mmを観測した。

長岡市では、信濃川を含む5河川が「はん濫危険水位」を超え、川口地域の魚野川で越水するなどし、市内各地で土砂崩れ、冠水による床上浸水等の被害が広範囲に発生した。



川口地域 魚野川 やな場 建物流出



小国地域 波海川 向橋 落橋



栃尾地域 榑谷 土砂崩れ



栃尾地域 本所 塩谷川 欠壊



栃尾地域 二日町 塩谷川 堰防欠壊



信濃川河川敷 花火会場 土砂除去、消害

人的被害と住家の被害状況

平成24年3月29日現在

区 分		新潟県全体	長 岡 市
死 者		4人	0人
行方不明者		1人	0人
負 傷 者		13人	2人
住 家 被 害	全 壊	41棟	4棟
	半 壊	805棟	36棟
	一部損壊	32棟	2棟
	床上浸水	1,013棟	198棟
	床下浸水	7,615棟	1,952棟

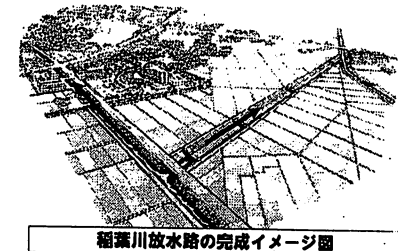
新潟県豪雨災害対策本部統括調整グループ発表

9

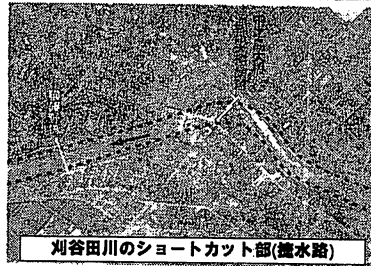
長岡市などの主な水害対策



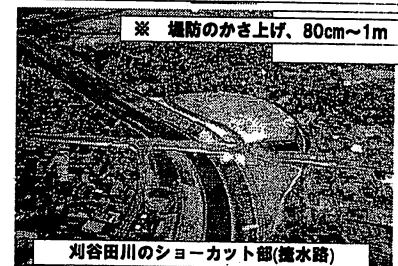
刈谷田川の遊水地 (H23.7.30撮影)



稲葉川放水路の完成イメージ図



刈谷田川のショートカット部(掘水路)



※ 堤防のかさ上げ、80cm~1m

刈谷田川のショーカット部(掘水路)

10

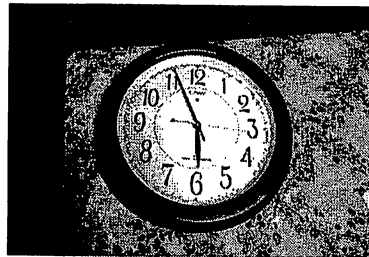
新潟県中越大震災の発生

10月23日(土) 午後5時56分

M6.8 最大震度7



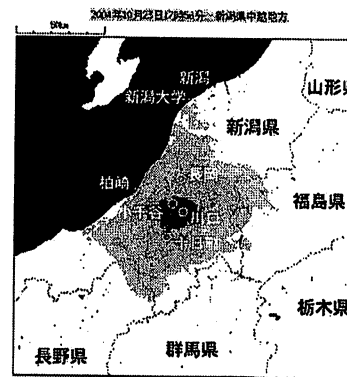
旧川口町木沢の震央標柱



地震で止まった時計

11

中越大震災の概要



北緯36度50分、東経138度50分

- 名称
平成16(2004)年新潟県中越地震
- 発生
平成16年10月23日(土)午後5時56分
- 震源・規模
北魚沼郡川口町地内 深さ13km M6.8
- 各地の震度
(震度7) 川口町(計測震度計で計測を開始以来、始めて、震度7を記録)
(震度6強) 小千谷市、山古志村、小国町
(震度6弱) 長岡市、十日町市、栃尾市、越路町、三島町、堀之内町、広神村、守門村、入広瀬村、川西町、中里町、刈羽村
(市町村名は当時の名称、赤字は新長岡市の地域)

12

中越大震災の特徴

- ・ 大きい余震が多発
- ・ 地盤災害
- ・ 宅地を含む居住崩壊
- ・ 中山間地の災害
- ・ 地震と豪雨による複合災害

・ 新長岡市の合併市町村は、7.13水害、中越大震災及び中越沖地震で被災

・ 旧長岡市は、北越戊辰戦争と第二次世界大戦の空襲でも市街地の約8割を焼失

・ 長岡市章  不死鳥(フェニックス)

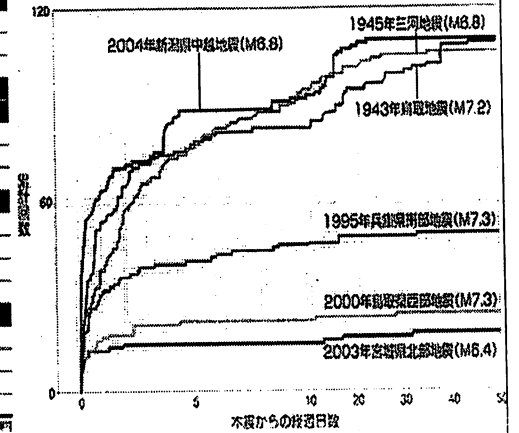
(S52.9.21に制定、長岡市の発展を不撓不屈の不死鳥の姿に託して表現)

中越大震災の余震

発源時	震源時	マグニチュード	震源の深さ (km)	最大震度
10月23日	17:56	6.8	13	7
	17:59	6.3	16	5強
	18:03	6.3	9	5強
	18:07	5.7	15	5強
	18:11	6.0	12	5強
	18:34	6.5	14	5強
	18:38	5.1	7	5強
	18:57	5.3	8	5強
	19:36	5.3	11	5強
	19:45	5.7	12	5強
19:48	4.4	14	5強	
10月24日	14:21	5.0	11	5強
10月25日	0:28	5.3	10	5強
	8:04	5.8	15	5強
10月27日	10:40	6.1	12	5強
11月4日	8:57	5.2	18	5強
11月8日	11:15	5.9	ごく浅い	5強
11月10日	3:43	5.3	5	5強
12月28日	18:30	5.0	8	5強

気象庁資料

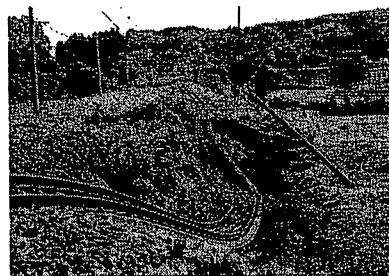
特徴は、大きい余震が長期間、断続的に発生した点である。



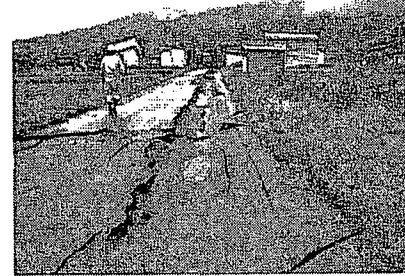
開業以来、初めて脱線した上越新幹線



液状化で浮上したマンホール(約1,300基)



線路が崩落した信越本線



陥没した道路(地下に下水配管)



道路が各所において被災



道路と橋との間に多数の段差が発生



信濃川や中小河川の堤防に広範囲な亀裂、法面崩れ等が発生



団地の外周道路が大規模に崩落し、住宅が被災

昭和56年に建築基準法の耐震基準が大幅に強化された。



建物の新旧により倒壊が異なる。

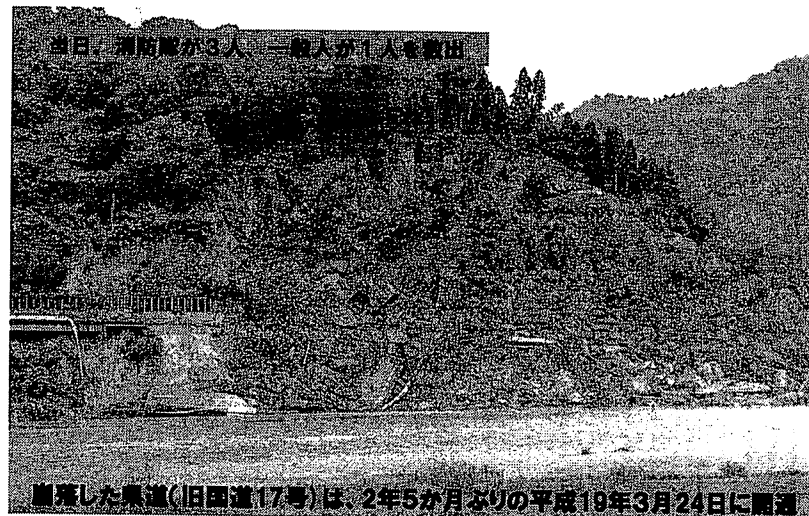


住宅地の地滑りによる住宅被害



家具、家電製品等が落下、転倒

妙見町地内土砂崩れ災害現場（車両数台が被災）



崩落した県道(旧国道17号)は、2年5か月ぶりの平成19年3月24日に開通

事故後、5日目(10/27)に優太ちゃんを救出



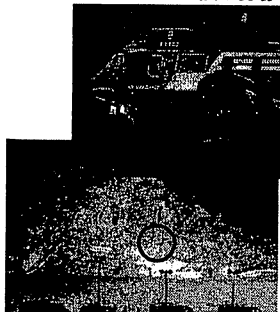
急傾斜で、余震が多く危険な現場



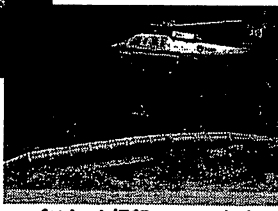
手作業で掘り出しを実施



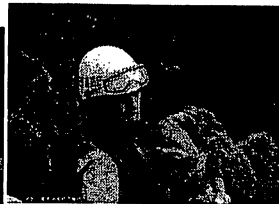
車外の岩の隙間に優太ちゃん



真優ちゃんの救出に徹夜で活動



バスケット担架でヘリに収容



元気に優太ちゃんを救出

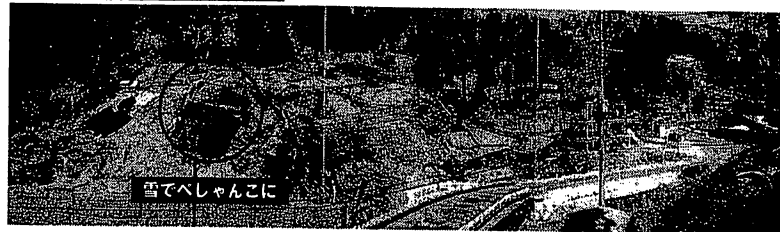
豪雪による二次災害

(濁沢町火災・土砂崩れ現場)



大規模な地すべりで、住宅が土砂に埋まり、2人が死亡

地震直後 (H16.12.5)



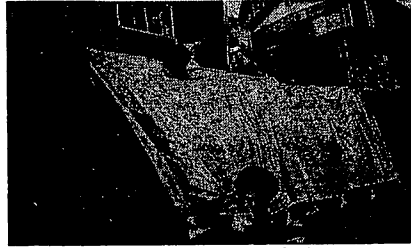
雪消え後 (H17.4.27)

※ 旧山古志村等の孤立集落では、屋根除雪ができず、多数の家がつぶれた。

消防団、自主防災会の活動



河川堤防の亀裂の保護(下流両岸1km)



住宅地での亀裂の保護



LPガスを使って避難所の給食準備



飲料水兼用大型防火水槽からの給水活動 21



次々と運び込まれる救援物資(本庁車庫)
(3週間で10トラック約450台分の救援物資、大半が個人からの「ゆらパック」であった。)



救援物資で一杯になった市役所1階ホール
(3週間で10トラック約450台分の救援物資、大半が個人からの「ゆらパック」であった。)



ボランティアによる放き出し



プライバシーのない避難所

22

被害状況(旧長岡市)

(1) 市内ライフラインの状況

	地震後の被害状況	復旧状況
電 気	64,592戸停電	個別を除き 10月27日復旧
都市ガス	ガス漏れのため、24日午前1時30分より信越線の東側約23,000戸の供給を停止	個別を除き 11月3日復旧
水 道	断水戸数 70,000戸 管路破損 537箇所	個別を除き 11月3日復旧
下水道	下水道の使用不能の世帯数 10,393世帯(33,186人)	個別を除き 11月5日復旧
電 話	電話回線の輻そうにより、かかりにくい状態が発生(通信規制が最大で約90%)	個別を除き 翌日復旧

23

(2) 人的被害と住家の被害状況

平成21年10月15日現在・最終

区 分	新潟県全体	長 岡 市 (合併市町村を含む。)	
	死 者	68人	28人
負 傷 者	4,795人	2,438人	
住 家 被 害	全 壊	3,175棟	2,197棟
	大規模半壊	2,167棟	1,457棟
	半 壊	11,643棟	7,052棟
	一部損壊	104,619棟	58,839棟
建 物 火 災	9件	7件	

新潟県中越大地震災害対策本部発表

24

応急対策

(1) 職員の出動体制及び災害対策本部の設置

震度	出動体制	出動内容	出動職員
3~4	第1次出動体制	地震情報、被害状況等の把握を主として実施	・危機管理防災本部 ・消防本部
5弱	第2次出動体制	被害状況の把握、応急対策の実施他、職員は待機	・1次出動体制職員 ・各部の部長・次長 ・各部長指定職員
5強以上 (消防:5弱)	災害対策本部の設置	災害対策本部を設置し、全職員で災害対策を実施	・全職員
	大規模地震初動体制	第1局面(混乱期)での人命救出・救護を最優先とした応急対策実施。地震発生後2日間(48時間)を目安	勤務時間外に地震が発生した場合は、全職員への非常参集の命令は、地震の発生をもって発令されたものとし、自主参集する。
	一般体制	第2局面(回復期)、第3局面(復旧期)の応急対策実施	

25

(2) 長岡市が行った避難者支援対策の方針

- 初動期(発生時から3日目まで)
住民の安全確保(避難所の開設、情報提供など)
生活必需品の確保(食料、水、毛布など)
- 第2期(4日目から3週間程度まで)
生活環境の改善(温かい食事、お風呂、畳など)
生活基盤の確保(仮設住宅への入居など)
- 第3期(3週間目以降 6ヶ月間程度まで)
本格的な生活再建への支援

26

(3) 避難所の開設

区分 (旧長岡市)		(最高時) 10月25日	12月8日
避難者数 (50,100人)	指定避難所	41,502人	1,476人 (山古志 1,415人)
	その他の避難所	8,598人	0人
避難所数 (125箇所)	指定避難所	73箇所	9箇所 (山古志 3箇所)
	その他の避難所	52箇所	0箇所

- ※ 旧長岡市民の1/4が避難所で生活
- ※ 指定避難所: 小中学校の体育館、地区公民館等の公共施設
- ※ その他の避難所: 車中泊、町内集会所、特養施設、農業用ビニールハウス等
- ※ 建物の構造が耐震化されていても、天井材の落下等により、指定避難所 145箇所中、使用不能施設が15箇所も発生
- ※ H16.12.8、旧山古志村を含む全避難所を閉鎖し、仮設住宅等に入居

27

(4) 仮設住宅の建設

長岡市	840戸	小千谷市	870戸
旧山古志村	632戸	広神村	30戸
旧越路町	114戸	十日町市	138戸
旧小国町	118戸	川西町	15戸
旧栃尾市	105戸	柏崎市	44戸
旧川口町	412戸	刈羽村	39戸
見附市	103戸	合計	3,460戸

- ※ 新長岡市全体 2,221戸建設
- ※ 入居状況 H17. 1. 1 H19. 1. 1 H19. 12. 31
5,099人 → 923人 → 退去
- ※ 50戸以上の団地には、独立して集会場を設置し、50戸未満の団地には、談話室を住宅棟と棟続きで設置
- ※ H19. 12. 31までに、仮設住宅から全世帯が退去
 - ・ 入居期限(2年間)が二度延長され、避難生活は、最大で3年2か月に及んだ。
 - ・ 旧山古志村の長島村長は、仮設住宅から最後に退去

28

長岡市が独自に取り組んだ対策

- ケーブルテレビを活用して災害対策本部会議の生中継を実施
- 仮設住宅団地にデイサービス機能(訪問介護、通所介護、訪問看護、配食サービス)を兼ね備えた施設を整備
- 在住外国人に対する支援策の実施

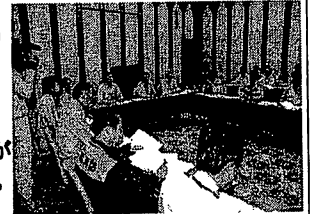
29

地元放送局による情報発信

■ ケーブルテレビ (NCT)

① 市災害対策本部会議(朝夕2回)の生中継(会議をマスコミに公開)

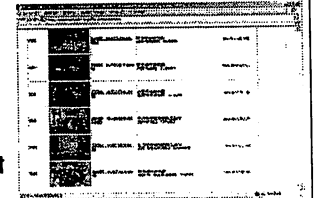
- ・ 10月26日第10回会議から録画放送を生中継に切り換え
- ・ 各部署長が報告する被害状況や対策と市長(本部長)が指示する内容を、直接、避難所や家庭で聞くことができた。
- ⇒ 市民の安心感を醸成(行政への信頼を確保)



② 市内各地の被害状況、イベント、復旧関連情報などを放送

- ⇒ 地区別の被害程度を家庭・事業所で確認

放送内容をホームページでVOD配信



30

■ FMながおか (80.7 MHz)

当時、旧長岡市には、防災行政無線(同報系)がなかった。

- ① 震災直後からニュース、生活情報等を配信
被害情報及びスーパーマーケット、入浴施設の開店状況、会社の状況、安否情報等を配信
- ② 長岡市臨時災害対策用FM放送局の開設
避難生活を送っている被災者等に対し、災害対策情報や被災者の救援のための生活関連情報等のきめ細かい情報を提供

- ・ 免許主体 長岡市
- ・ 設置場所 長岡市今朝白1-8-11(FMながおか)
- ・ 放送区域 長岡市、越路町、三島町、与板町、見附市、中之島町、小千谷市の各一部地域
- ・ 周波数 76.4MHz (現在は、80.7MHzに変更)
- ・ 空中線電力 20W → 50W (周辺市町村の要望により、エリア拡大)
- ・ 免許の期間 平成16年10月27日～平成17年1月26日(3か月間)

臨時災害放送局にコミュニティFMを利用

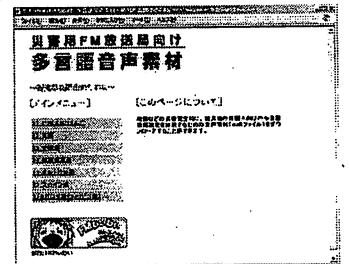
31

③ 在留外国人向け放送を実施

- 1日2回放送、午後4時50分、午後7時50分
- 英語、ポルトガル語、中国語、やさしい日本語(約2,100人の外国人が在住)

④ 多言語音声素材の提供を受ける。

「FMわいわい」(神戸市)から被災地の外国人に向けて多言語の情報を放送するため、音声素材(mp3ファイル)の提供を受けた。



FMわいわい(神戸市)

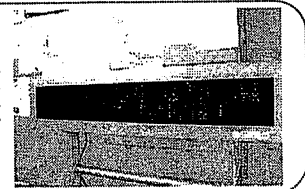
⑤ 見えるラジオの設置(災害時全国初)

- 「FM新潟」が全国FM放送協議会を通じて、全国のFM放送局から集めて長岡市内の避難所など12か所に設置
- 市災害対策本部情報を「FM新潟」の協力によりデータ入力を行い、臨時災害対策用FM放送局が配信

聴覚障害者にも対応

「見えるラジオ」は、FM放送の電波のすき間を利用し、文字や図形などのデジタルデータを圧縮して送信する技術を活用した新しいメディア

(電光掲示板)



32

仮設住宅団地におけるデイサービスセンター (サポートセンター千歳)の整備

■ 目的

仮設住宅に生活する高齢者を対象にした「小規模多機能型サービス拠点」の機能を持ち合わせた施設として整備
(災害救助法を適用した仮設住宅団地内の集会所として、国・県・市で合意。全国で初めて)

■ 機能

通所介護、訪問看護、訪問介護、配食サービス、介護予防プログラム、各種相談、地域交流

■ 運営体制

社会福祉法人に委託、スタッフ6名、24時間体制
開所:平成16年12月4日 ⇒ 閉所:平成18年12月13日

■ 利用者数

各種サービスを利用した延人数は、21,487人

がんばろう申越 がんばって暮らす展開 サポートセンター千歳

仮設住宅団地に全国初の試みとしてサポートセンターを開設いたしました。高齢者の小規模多機能型サービス拠点として、また仮設住宅にお住まいの皆様方が日々の生活を送るためにご活用いただけるよう、各種のサービスを提供いたします。



通所介護 (介護保険)

当センターに週1、入浴・食事の提供と日常生活上のお世話を週2回程度を行います。
(一般型 定員20名)

訪問看護 (介護保険・医療保険)

看護師等がご家庭に訪問し、かかりつけ医の指示により療養上のお世話を提供いたします。

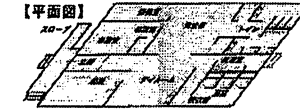
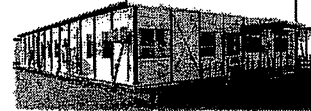
訪問介護 (介護保険等)

ホームヘルパーがご家庭に訪問し、入浴・調理・洗濯等のお世話を提供いたします。

配食サービス

栄養バランスを考えた献立の献立に応じた食事内容で、3食550円提供いたします。

介護予防のサービスを行うときは、個別として費用(サービスの種類ごとに定められる基準額)の9割が保険で捻出され、1割が自己負担となります。



介護予防プログラム

仮設住宅という新しい環境での生活と、生活を営むことによる運動不足の解消に、予防プログラムを提供いたします。体を動かして、運動不足を解消しましょう。

各種相談

○在宅介護支援センター
介護や介護予防に関するご質問だけでなく、生活に際した不安や悩みなど様々なご相談をお受けいたします。

○心の相談室
長年経験豊富な仮設住宅生活による不安や悩みを相談しながら、日常生活上のお世話をいたします。

○医療と福祉なんでも相談室
医療関係と福祉関係の専門スタッフから、様々な相談室が、総合的な相談(児童・高齢者・障害者・生活困窮)をお受けいたします。

地域交流

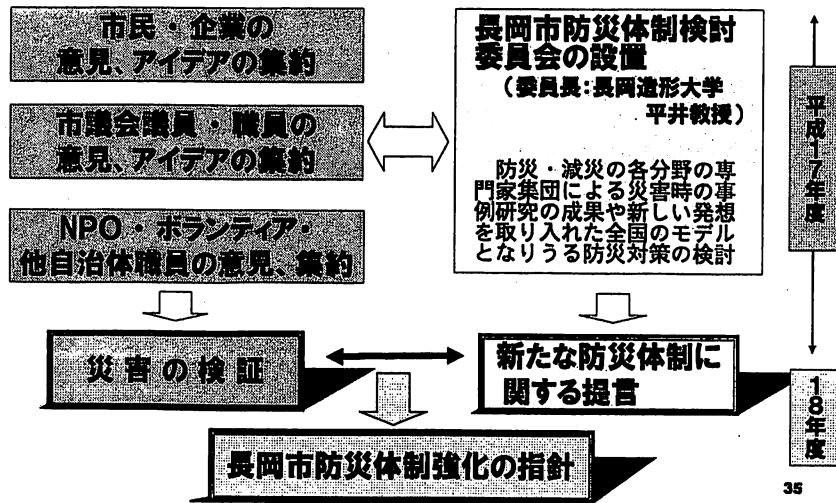
「地域のつながり」のように、現場にお住まいの皆様が交流できる場として、仮設住宅にお住まいの皆様が仲間作りやコミュニティづくりの一助となるようお受けいたします。

サポートセンター千歳は地域の顔に位置します。

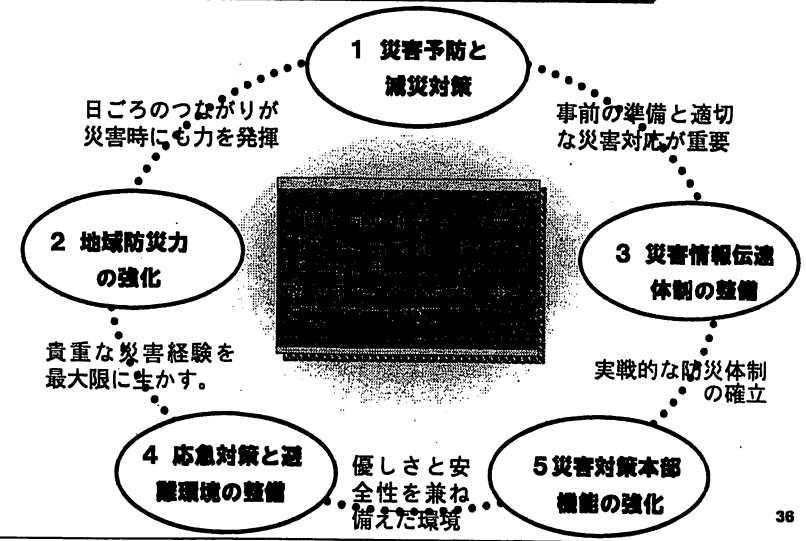


電話: 0258-30-1120

長岡市防災体制の強化に向けた取り組みの流れ —日本—災害に強い都市(まち)をつくるために—



長岡市防災体制強化の指針



防災体制強化の指針「5つの柱」うち、
主な取り組みの事例

- 1 地域防災計画の見直し
- 2 各種災害対応マニュアルの作成
- 3 市民向け防災パンフレットの作成
- 4 災害情報伝達体制の整備
- 5 避難所環境の整備
- 6 中越市民防災安全大学の開講

平成18年度

1 地域防災計画の見直し

見直しポイント

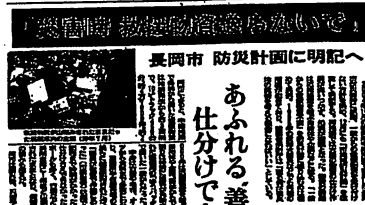
1 災害経験を
踏まえた見直し

2 市町村合併に
対応した見直し

- ① 災害予防と減災対策を重視
- ② 地域防災力の強化
- ③ 災害情報伝達体制の整備
- ④ 応急対策と避難環境の整備
- ⑤ 災害対策本部機能の強化
- ⑥ 地域特性に配慮

1 地域防災計画の見直し

(1) 「救援物資」



全国へ
情報発信

人命に関わる状況下において、
・いつ来るかわからない。
・どれくらいの量かわからない。
・何がくるかわからない。
個人からの救援物資に頼るわけにはいかない。



中越地震の教訓

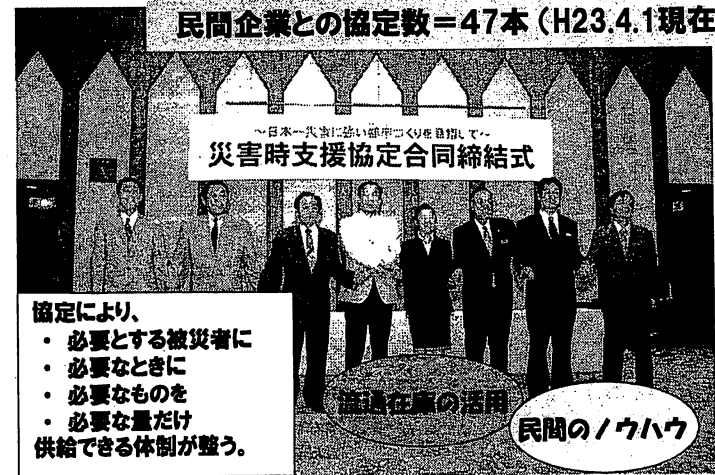
救援物資を断る理由

「災害発生直後における個人からの
救援物資は受け取らない。」を明記

最近、「救援物資は、被災地を襲う
第二の災害」といわれている。

(2) 民間流通在庫の活用

民間企業との協定数=47本 (H23.4.1現在)



災害時支援協定合同締結式

協定により、
・必要とする被災者に
・必要なときに
・必要なものを
・必要な量だけ
供給できる体制が整う。

流通在庫の活用

民間のノウハウ

平成18年7月14日合同調印式

2 各種災害対応マニュアルの作成

- 1 本庁・支所が一体となった災害対応を目指す。
 - ・ 市災対本部設置・運営マニュアル(震災・津波編/風水害編)
 - ・ 市災対本部事務局員マニュアル(震災・津波編/風水害編)
- 2 避難所開設マニュアル
- 3 物資調達・救護物資対応マニュアル

- ・ 支所長も市長に代わって、避難勧告等の発令が可能(合併による広域化に対応し、発令後は、直ちに市長に報告)
- ・ 本庁と支所間のテレビ会議システムの整備
- ・ カメラ付き携帯電話によるテレビ電話機能の積極的活用



小中学校の防災教材の作成

中越大震災から得た教訓をもとに、何を学び、今後どのように生かすかを考える。

- ・ H17年度末、各学校に配布
- ・ ① 小学校(中学年)、② 小学校(高学年)、③ 中学校の3種類

41

3 市民向け防災パンフレットの作成



市民力、地域力の強化を図り、日本一災害に強い都市づくり

- ・ 被災経験から得た実践的な対応策
- ・ 家庭や地域で災害に備えるため、各種災害に応じた役立つ知識、対応
- ・ 自主防災会の育成、強化
- ・ H18年末、全世帯及び各町内会長等に配布



7.13水害の教訓を生かして

洪水避難地図(洪水ハザードマップ)

- ・ 市内を4分冊、H20.4に全世帯に配布
- ・ 信濃川を含む13河川を対象に作成
- ・ 視聴覚障害者及び外国人(3か国)用を、H20.7に配布

土砂災害ハザードマップ

- ・ 市内7地区を対象し、H19~H21に配布

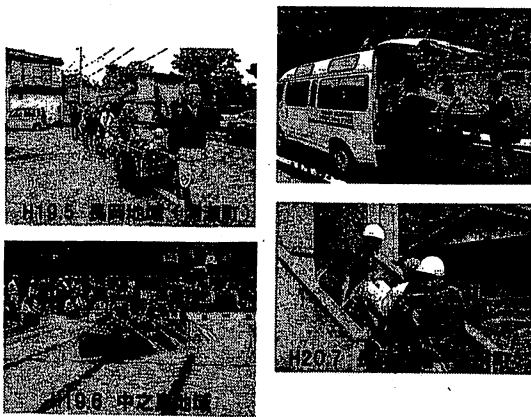
津波ハザードマップ

- ・ 寺泊地域を対象に、H21.6に全世帯に配布



42

ハザードマップを活用した訓練



避難時に黄色布を表示



7.13水害や中越大震災を教訓に、各支所地域等において、水害、震災、土砂災害及び津波等を想定した訓練を実施

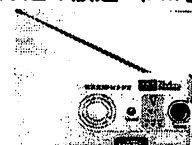
H21.10 山古志地区

4 災害情報伝達体制の整備

- (1) 緊急告知FMラジオの無償貸与及び緊急割り込み放送 (FMながおか)



緊急割り込み放送装置(災対本部事務局等に設置)



緊急告知FMラジオ

- 避難勧告等の緊急放送時には、自動的に電源が入り、最大音量で長岡市役所等から直接放送して市民に対して、災害情報を提供する。
 - ・ 1台約8,500円、H18~H23 約1万台
 - ・ 町内会(3台)、災害時要援護者(開示者)、民生・児童委員、コミュニティセンター等に配置
- 屋外拡声器の整備
 - FMながおか⇒現在25基、防災行政無線(同報系)⇒現在148基(7支所地域)
- (2) 衛星携帯電話の配備
 - ・ 土砂災害、豪雪等による孤立対策等のため、支所及び集落等に配備
 - H18-16台(本庁、支所等)、H19-37台(集落)、H22-5台(集落) 計58台
 - ・ 地区防災センター(避難所)との情報連絡手段の確保(市役所から半径4km以上)
 - H23-17台(機器の維持管理上、直近のコミセンに配置)

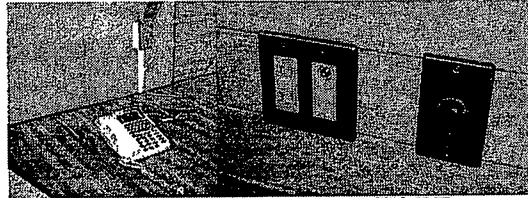
44

5 避難所(学校体育館等)環境の整備

既存の小・中学校 87校に、H17～19年度の3か年計画で整備



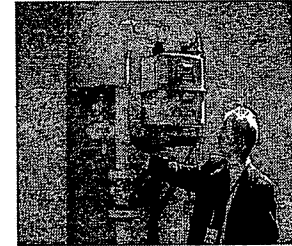
出入口にスロープ設置



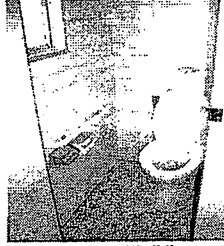
体育館にCAテレビ・電話・LANの端末設置



受水槽に蛇口を設置



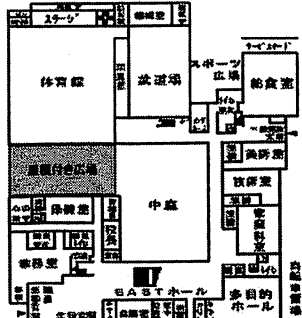
LPGガスの接続口を設置



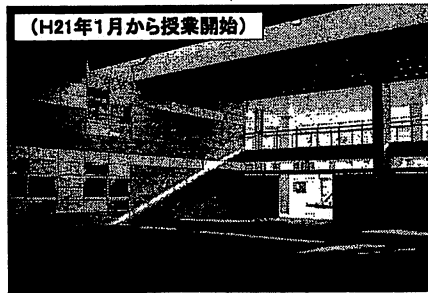
トイレの洋式化⁴⁵

東中学校で新たな試み「学校を避難所として使いやすく」

(災害を想定して設計された先進的な校舎)



1 階平面図



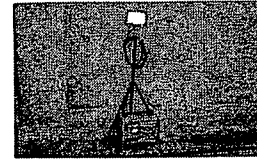
(H21年1月から授業開始)

屋根付き広場

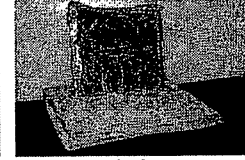
- 1 体育館と校舎の間に屋根付き広場 → 雨や雪でも、支援物資の搬入、ケガ人の搬送や仮設トイレの設置等が可能 (約360㎡)
- 2 体育館の隣に給食室 → 炊き出し用の食事を迅速に提供する場所を整備
- 3 避難エリアと教育エリアを分離 → 避難者と生徒がお互いに活動しやすい。

2校目は、宮内中学校 H22、23年度(2か年計画)で建設

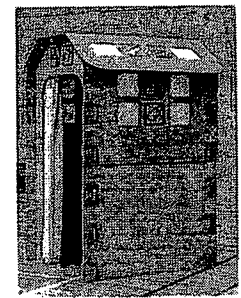
防災物品の備蓄(地区防災センター) (主な備蓄品)



発電機、投光機

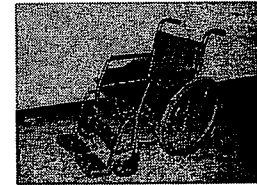


毛布

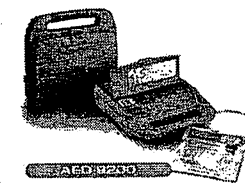


簡易更衣室・授乳室

避難所生活の中で、女性のプライバシーを守るスペースを確保する。



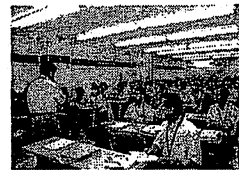
車椅子



AED

6 中越市民防災安全大学の開講

平成18年度に、大学を開講



- 1 開講期間 7月～11月の5か月間に26講座
- 2 対象者 高校生以上の長岡市民等、定員50人
- 3 受講料 1人15,000円(学生7,500円)

- 「中越市民防災安全士」の認定(地域の防災リーダーの養成)
- 市民安全ネットワークの形成
1年間で50人が卒業すれば、10年間で500人
- 中越市民防災安全士会の設立

地域に根ざした防災活動を展開

現在 235名を認定

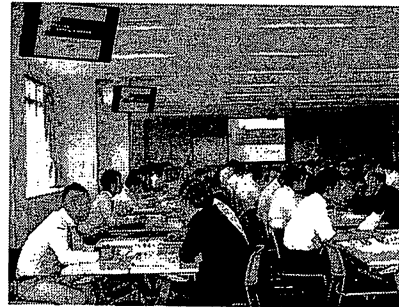


地区防災センター関係者会議の開催

- 中越大震災時、避難所開設は、町内会等で、運動会等を行い、日頃から顔の見える関係づくりをしていたところが、スムーズに出来たと言われている。
- 日頃から、顔の見える関係づくりが大切である。
- 地区防災センター(救護所と避難所を兼ねる。) 52
その他の指定避難所 193 計 245か所
- 地区防災センター関係者会議の開催(長岡地域)
 - 1 時期：毎年 5月中旬、1時間30分程度
 - 2 参加者：正副地区防災センター長、小・中学校長、コミュニティセンター長及び事務局(関係部局職員) 計 約150人
 - 3 内容
 - ①自己紹介、②避難所の開設、運営方法及び災対本部との連絡方法等の説明、③その他

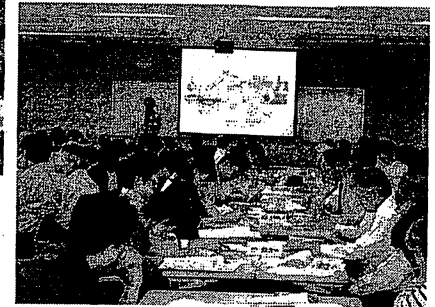
49

関係者会議の状況



自己紹介(顔の見える関係づくり)

担当者による避難所開設等の説明

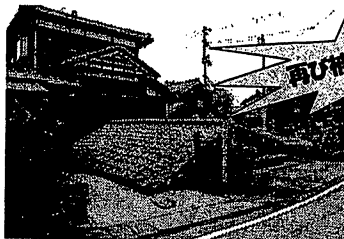


50

中越沖地震(中越震災から2年9か月後に)

各合併地域における震度等

発生日時・規模	計測最大震度	長岡	中之島	越路	三島	山古志	小国	和島	栃尾	与板	寺泊
H19.7.16 10:13頃 深さ 約17km 規模 M 6.8	長岡市、柏崎市、刈羽村 6強	5弱	6弱	5強	6弱	6弱	6強	5強	4	5強	5弱
H19.7.16 15:37頃 深さ 約23km 規模 M 5.8	長岡市、出雲崎町 6弱	4	5弱	4	4	4	4	6弱	3	5弱	4



寺泊地域の車庫に被害



大積千本町地内の国道8号が崩落 51

人的被害と住家の被害状況

平成21年11月16日現在

区分	新潟県全体	長岡市 (合併市町村を含む。)	
		新潟県全体	長岡市
死者	15人	0人	
負傷者	2,316人	243人	
住家被害	全壊	1,331棟	10棟
	大規模半壊	856棟	25棟
	半壊	4,853棟	435棟
	一部損壊	36,948棟	7,045棟
建物火災	1件	0件	

新潟県中越沖地震災害対策本部発表

被害総額は、1兆5千億円(風評被害500億円) 新潟県の推計値

52

繰り返される救援物資の問題

まだまだ議論が必要

災害時の
救援物資
どうする
善意の山積み

災害時の救援物資の山積みは、被災者にとって必要な物資であるが、一方で、被災地では物資の不足が深刻化している。被災地では、救援物資の山積みは、被災者にとって必要な物資であるが、一方で、被災地では物資の不足が深刻化している。

何が不足か情報発信を
被災地では、救援物資の山積みは、被災者にとって必要な物資であるが、一方で、被災地では物資の不足が深刻化している。

H19/8/21 新潟日報

救援物資余った。困った一

保管場所に悩む柏崎市

柏崎市では、救援物資の山積みは、被災者にとって必要な物資であるが、一方で、被災地では物資の不足が深刻化している。

保管場所に悩む柏崎市
被災地では、救援物資の山積みは、被災者にとって必要な物資であるが、一方で、被災地では物資の不足が深刻化している。

H19/9/9 読売新聞

53



震災当時、防災シビックコア地区に緊急仮設住宅



建設戸数 459戸
入居戸数 449世帯
入居者数 1,226人
(平成17年1月31日現在)
防災シビックコア地区のほぼ全域に建設した。



入居開始 (H16.11.24~12.2)

千歳地区の全景(北側から見る。)

55

シビックコア地区整備制度とは

地域の特徴や創意工夫を生かしたまちづくりを支援する国土交通省の制度であり、地域の人々の安全で豊かな生活を支える国の施設、地方公共団体の施設及び民間の施設が連携して、そこに暮らす人々の利便性の向上を図るため、関連する都市整備事業との整合を図った計画を策定し、魅力と賑わいのある拠点地区の形成を推進するものである。(国土交通省:平成5年3月創設)

シビックコア整備計画が策定された地区

全国では、19地区で計画が策定されており、長岡市は、17番目の計画として、平成17年11月に国土交通省から同意を得た。
冠に、「防災」と名が付く、シビックコア計画は、全国で長岡市が初めてである。
この制度の対象となる市町村は、国が定めている「官庁施設整備10か年計画」により、国の建築物の整備が予定されている都市である。

56

長岡防災シビックコア地区の整備に至るまでの経緯

H 8~9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21
・長岡地城土地開発公社が旧国鉄清算事業団から用地を取得	・土地地区面整理の都市計画決定(アミニメント施設、公共施設整備と宅地整備)	・土地地区面整理事業の国庫補助新規模採択	・県営ゾールの誘致表明 ・土地地区面整理事業の一時休止 ・長岡市と広域行政「ナガオカ」の都市機能導入 ・シビックコア制度を活用による整備 ・長岡市と広域行政「ナガオカ」の都市機能導入 ・シビックコア制度を活用による整備	・「土地利用策定委員会」を設置(土地利用計画の見直し) ・県営ゾールの誘致候補地を悠久山地区に変更 ・長岡市と広域行政「ナガオカ」の都市機能導入 ・シビックコア制度を活用による整備	・「長岡シビックコア地区整備計画」を策定 ・「長岡シビックコア地区整備計画」を策定 ・「長岡シビックコア地区整備計画」を策定	・当該地区に緊急仮設住宅を4,000戸建設 ・10.23 中越大地震発生 ・10.23 中越大地震発生	・同整備計画書を国へ提出し、同意を得る。 ・長岡防災シビックコア地区整備計画策定	・長岡防災シビックコア地区整備事業着手 ・7.16 中越沖地震発生	・長岡防災シビックコア地区整備事業着手 ・7.16 中越沖地震発生	・新潟日報長岡支社社屋完成 ・消防本部庁舎・防災公園着工 ・長岡合同庁舎別館(新潟県地方公務員局長岡支局)完成 ・被災者公営住宅完成(現千歳市営住宅)	・ながおかも市民防災センター完成 ・消防本部庁舎完成

整備スケジュール

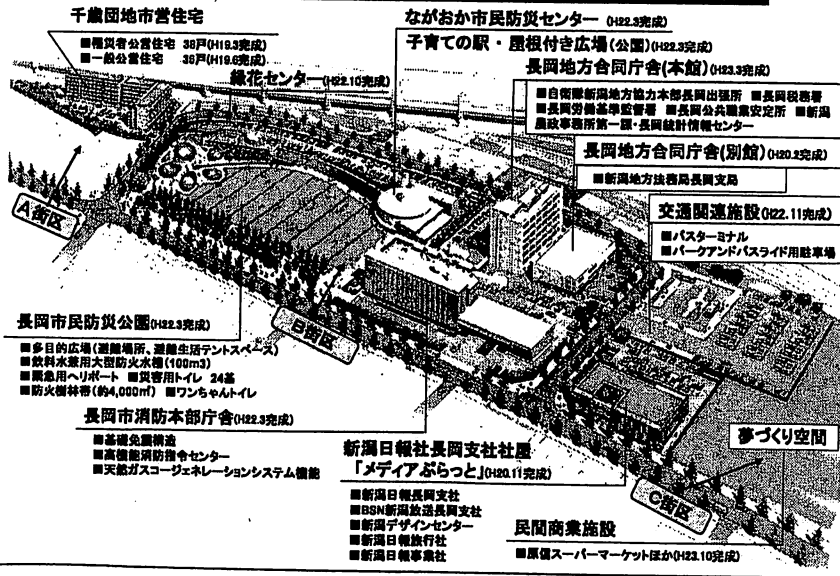
主な建設事業は、各種国庫補助金制度(まちづくり交付金・都市公園事業補助金等)を活用し、平成18年度から平成22年度の5か年で整備した。

施設名	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
長岡地方合同庁舎(国)		別館	本館		
長岡市消防本部					
長岡市民防災公園					
ながおかも市民防災センター					
緑花センター					
千歳団地市営住宅					
民間建築物(新潟日报社)					
街路事業			(新)千歳南町線		(新)清塚袋町線

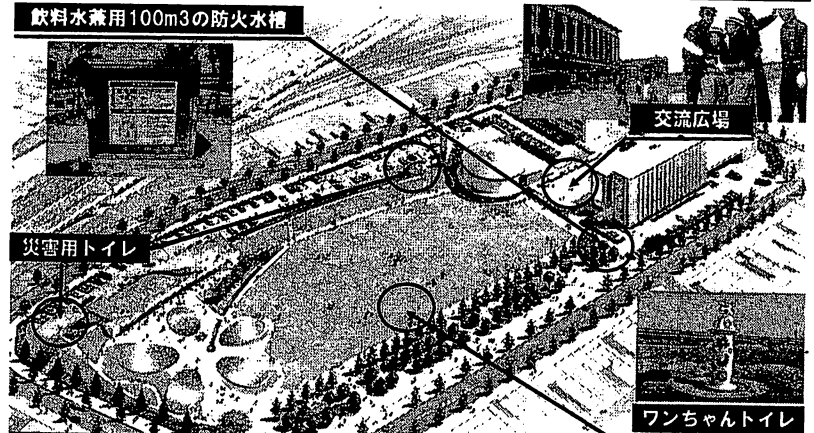
凡例: 調査・設計 工事

案内図

名称: 長岡防災シビックコア地区、規模: 約11.5ha
所在地: 長岡市千歳1丁目ほか地内(旧国鉄長岡操場跡地)



長岡市民防災公園の機能

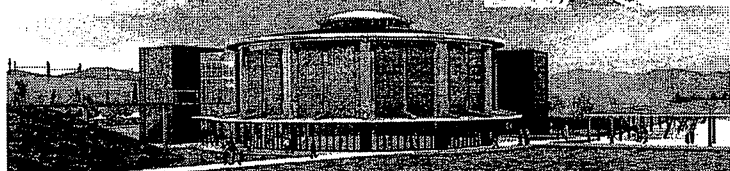


- ・多目的広場(住民の避難場所: 1ha、約8,300人)
- ・避難生活テントスペース(475張) ・防火樹林帯(約4,000m²)
- ・飲料水兼用大型防火水槽(100m³、約1万1千人、1人1日3ℓ、3日分)
- ・災害用トイレ(北側14基、南側10個 計24基) ・緊急用ヘリポート

ながおか市民防災センターの機能

長岡市、オリジナルの「子育ての駅」と「市民防災」の拠点機能が融合した全国初の施設

市民防災公園から見た市民防災センター
 建築面積：1,035㎡、延べ面積：1,452㎡



防災センターの役割
 (平常時) - 防災力向上、人材育成拠点

- ① 子育て支援
- ② 防災学習
- ③ 防災教室
- ④ 防災活動拠点

(災害時) - ボランティア等の活動支援拠点

- ① 災害情報提供
- ② ボランティアセンター設置
- ③ 物資の一時集積
- ④ 打合せスペース

ながおか市民防災センターの1階

屋根付き広場

1階

全天候型運動広場として活用



救援物資の一時集積所

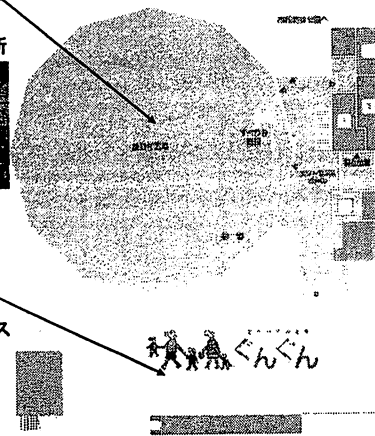


子育ての駅 (くんくん)

多世代交流や子育て支援等の拠点施設



ボランティアの打ち合わせスペース



ながおか市民防災センターの2階

防災学習展示

2階

防災関係団体事務室



防災学習



ケーブルテレビで情報提供

研修室



災害ボランティアセンターを設置

平常時から防災活動を実施
 → 災害時にも活躍

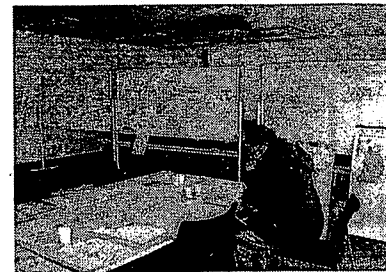
- NPO法人 住民安全ネットワーク ジャパン
- 社団法人 中越防災安全推進機構



東日本大震災時の対応

2階 研修室

正面玄関

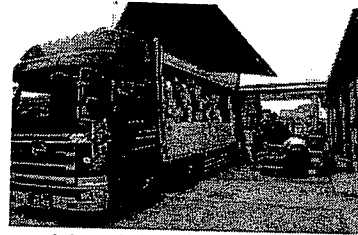


ボランティアの受付、手配等

1階 屋根付き広場



↓ 救援物資の受付



↑ 東北の被災地へ輸送



救援物資の仕分け、一時集積



旧山古志村の闘牛

創造的復旧

震災復興祈願花火「フェニックス」



復興を願って「故郷(ふるさと)」を合唱した市内9つの小・中学校の子どもたち

長岡市危機管理防災本部